

# ICTを活用した歩行者移動支援サービスの 普及促進に向けた取組

## <バリアフリー・ナビプロジェクト>

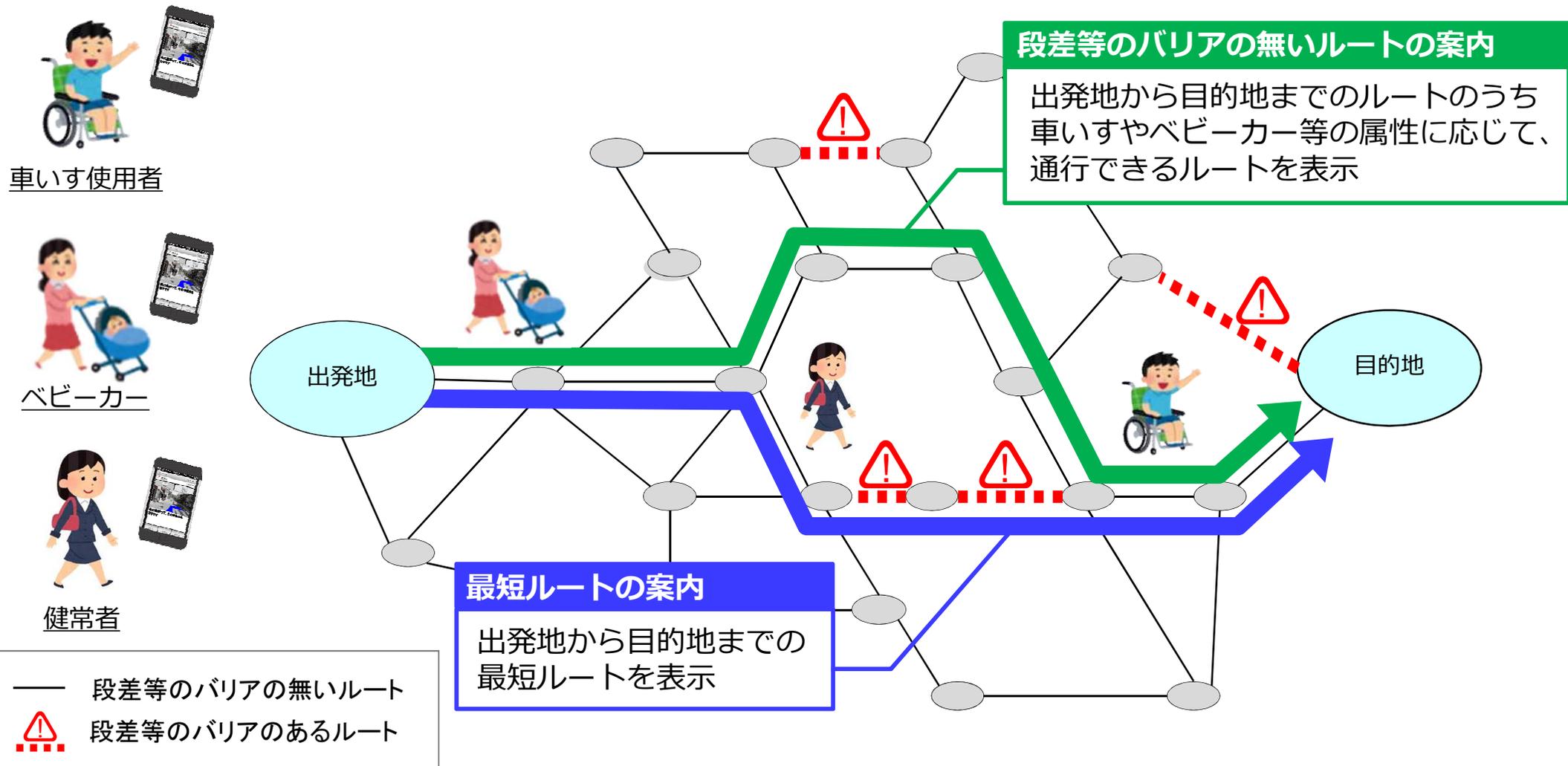
---

平成31年3月

政策統括官付

# 1. 実現を目指すサービスのイメージ～バリアフリー・ナビプロジェクト

- ユニバーサル社会の構築に向け、障害者や高齢者を含むあらゆる人々が円滑に移動できる環境を実現するため、ICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及に向けた取組を推進
- 個人の身体状況やニーズに応じて移動を支援する様々な情報をスマートフォンアプリ等を通じて民間事業者により提供される環境を目指す



## 2. 普及促進に関する取組(地方公共団体の既存施策との連携)

- 地方公共団体の既存施策との連携の可能性を実証により検証(川崎市、大東市にて実施)。
- 実証では、バリアフリーマップ作成時の調査と連携した歩行空間ネットワーク等整備を実践し、ノウハウや留意点等を取りまとめる。
- 成果を踏まえ、歩行空間ネットワークデータ等整備を効率的に行うための手引き書を作成予定

### オープンデータを活用した歩行者移動支援サービスの取組に関するガイドライン(2018.7)

- 市区町村等が各地域で実際に取組みを進める際の参考とできるように、歩行者移動支援サービスの意義や導入までの手順や考え方など一般的な内容を記載。

### 歩行空間ネットワークデータ等整備仕様(2018.3)

- 歩行者移動支援サービスの提供に際し、重要な役割を担う「歩行空間ネットワークデータ」と「施設データ」の整備内容と構造を定めたもの。

補完

### 効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に関する手引き

- 歩行空間ネットワークデータ等のデータ整備推進を目指し、市区町村が歩行空間ネットワークデータ等の整備を**効率的に行うための手引き書**。
- 市区町村が実施しているバリアフリー調査等の既存施策と連携することにより、歩行空間ネットワークデータ等を効率的に整備する方法について**実証を通じて確認した具体的な方法**を記載。

### 3. 多様な主体の参加促進、データ収集促進に関する検討

- 多様な団体からの参加者募集効果を確認するため、池袋駅周辺(東京都豊島区)でバリアフリー情報の収集を実施(アプリ「WheeLog!」を使用)。多様な団体(車いす関連団体、自治体等)を通じた広報や知人からの紹介により被験者を募集したイベントと帝京平成大学の授業時に学生向けに実施したイベントの2種類を開催。
- 情報収集後、一定期間投稿ログを取得して、投稿数などを分析。

	多様な団体を通じて参加者を募集したイベント	帝京平成大学の学生向けイベント
場所	池袋駅周辺 (会場:帝京平成大学)	
参加者	多様な団体・既存ユーザーからの紹介で募集した35名	帝京平成大学の学生69名
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者は、街歩きの中でミッション達成を目指しながら、新規のバリアフリー情報を投稿</li> <li>・ 一定期間投稿ログを取得して、投稿数などを分析</li> </ul>	
当日の様子	 <p>【事前説明】</p>	 <p>【屋外調査の様子】</p>
	 <p>【事前説明】</p>	 <p>【振り返りの様子】</p>

# 4. バリアフリー情報のチェック・更新に関する検討

- 既存のバリアフリー情報と現地の整合状況について、利用者が○×で確認(チェック投稿)し、変化や異なる情報を更新する実証を実施(アプリ「みんなでMaPiece」を使用)。
- また、投稿しやすさ、使いやすさ(UIや項目数等)による取組への参加状況や効果を確認する実証を実施。

	既存バリアフリー情報の正誤投稿に関する実証	投稿のしやすさが住民投稿促進に与える影響に関する実証
場所	JR御茶ノ水駅周辺	
参加者	多様な団体からの紹介で募集した19名	多様な団体からの紹介で募集した17名
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存のバリアフリー情報の変更の有無を、住民自身でチェックし、情報を更新。</li> <li>・ 今後住民がチェック・更新した投稿ログを分析</li> </ul> <p>           バリアフリー経路案内    チェック(○×)投稿画面    実施状況         </p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投稿しやすさ(UIや項目数等)が異なるアプリを使って住民が情報を投稿。</li> <li>・ 投稿しやすさの違いによる効果を確認。</li> </ul> <p>           使用したアプリ    実施状況         </p> 

※ リンク：歩行経路を示す線で、バリアフリー情報等を付与することが出来る。

## 5. 歩行空間ネットワークデータ整備に関する取組

### ○ネットワークデータ整備

- ✓ 2020年東京オリパラ競技大会に向け、競技会場周辺の最寄り駅と主要なルートを含む歩行空間ネットワークデータを整備し、オープンデータとして公開。
- ✓ 様々なサービスが創出されることを目的として、国において先行的にデータ整備を実施。
- ✓ 第3回東京公共交通オープンデータチャレンジにおいて、東京都と連携して利用可能なオープンデータを拡充。
- ✓ オリンピック・パラリンピック等経済界協議会が整備するデータ等と併せて、広範囲なエリアにおいてサービス提供できることを目指す。

### ○整備概要

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会場周辺の駅やターミナル駅周辺等、多くの歩行者の利用が想定される経路を中心に歩行空間ネットワークデータを約195km整備。

整備エリア		整備内容	データサイト公開
新宿駅周辺	新宿区	新規整備	2018年10月公開
東京駅周辺	中央区・千代田区	データ更新（一部新規整備）	2019年 1月公開
池袋駅周辺	豊島区	新規整備	2019年 1月公開
上野駅周辺	台東区	データ更新	2019年 4月以降順次公開
大門駅周辺	港区	データ更新	2019年 4月以降順次公開

公開場所 ・歩行者移動支援サービスに関するデータサイト (<https://www.hokoukukan.go.jp/top.html>)  
 ・G空間情報センター ([https://www.geospatial.jp/gp\\_front/](https://www.geospatial.jp/gp_front/))

# 5-1. 歩行空間ネットワークデータ整備状況(東京駅・新宿駅)

## 【新宿駅周辺】

整備延長 32.2km



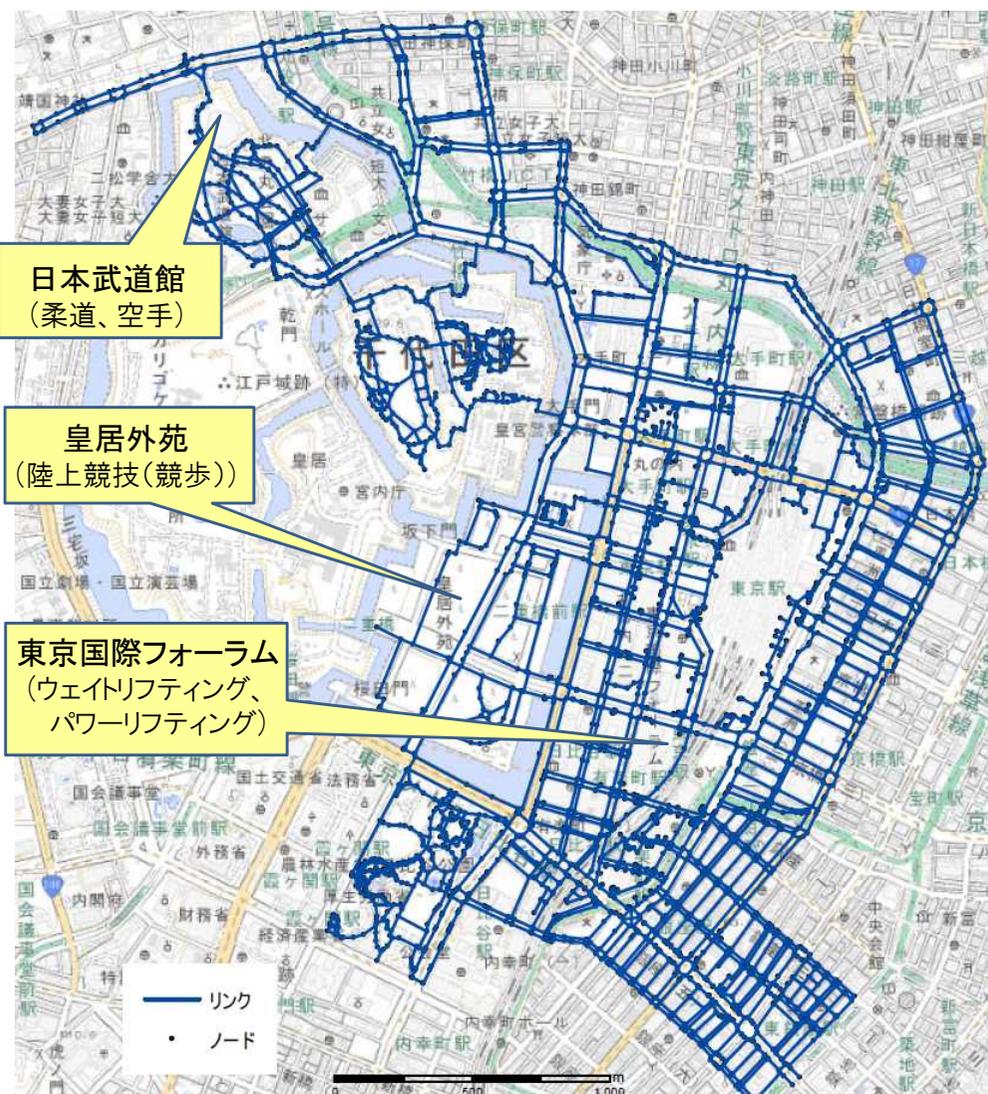
オリンピック・パラリンピック等経済界協議会、高精度測位社会プロジェクト整備範囲

新宿駅

オリンピック・パラリンピック等経済界協議会と連携してデータ整備を実施

## 【東京駅周辺】

整備延長 75.32km



日本武道館  
(柔道、空手)

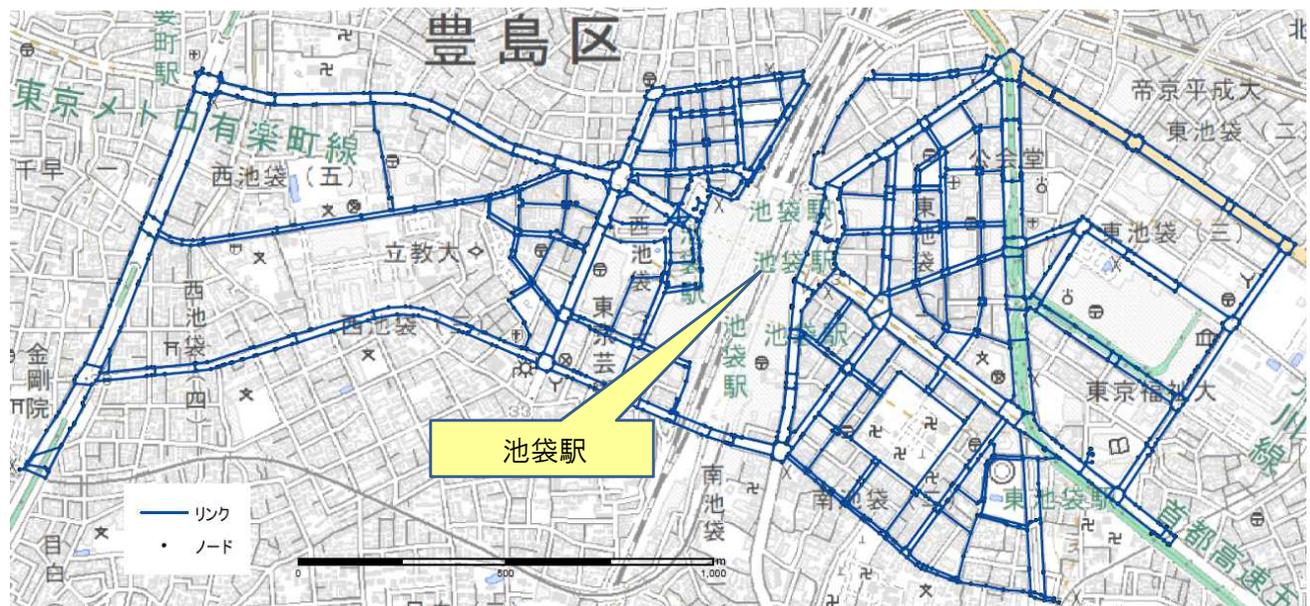
皇居外苑  
(陸上競技(競歩))

東京国際フォーラム  
(ウェイトリフティング、  
パワーリフティング)

高精度測位社会PJIにおいて作成・公開している東京駅周辺の屋内地図及びネットワークデータと接合を実施

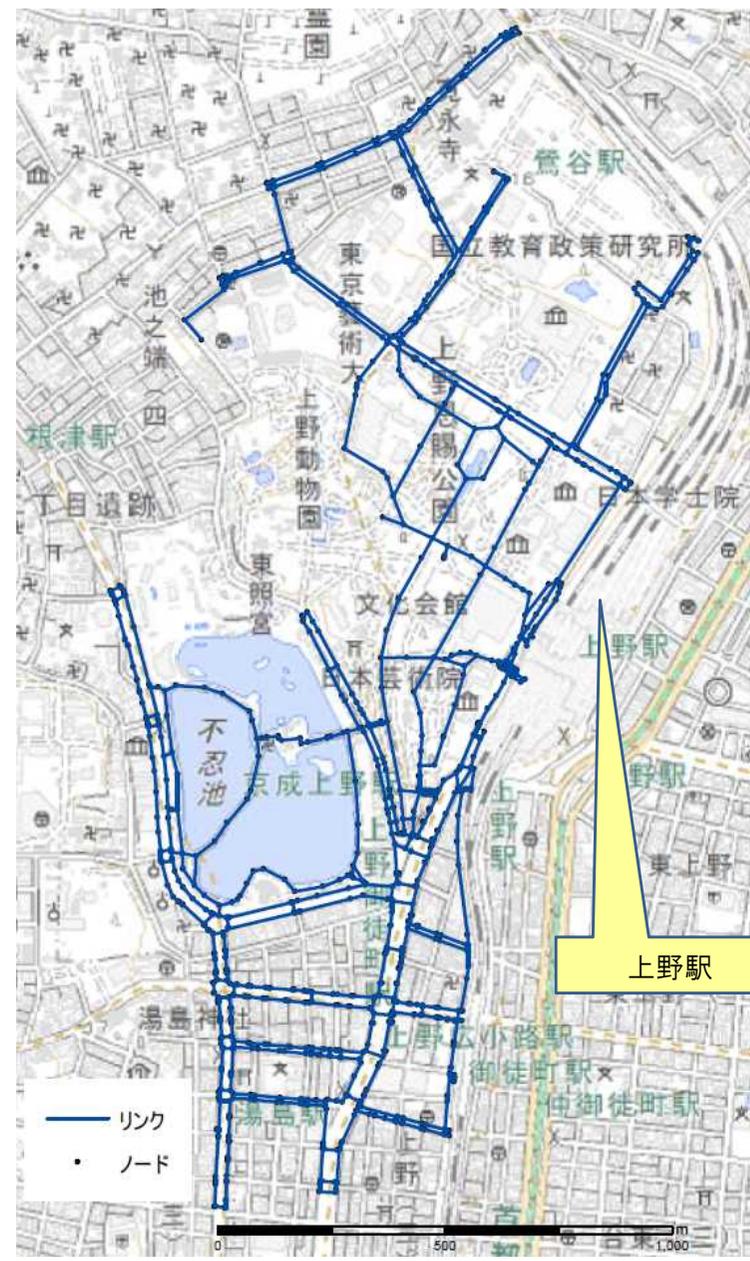
## 【池袋駅周辺】

整備延長 39.9km



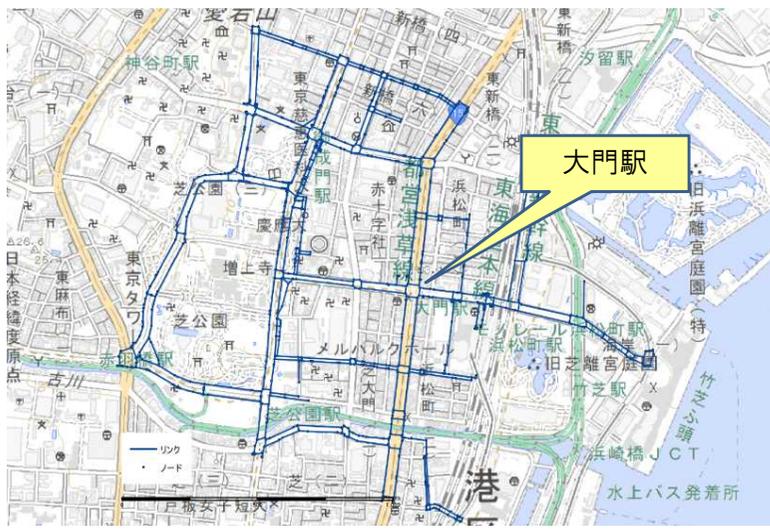
## 【上野駅周辺】

整備延長 26.6km



## 【大門駅、浜松町駅周辺】

整備延長 21.4km



第3回東京公共交通オープンデータチャレンジに向け、公開データの充実を、東京都と連携して実施。これにより、来訪者や障害のある方、様々な属性の方が、屋外・屋内・地下空間をスムーズに目的地までたどり着ける等のサービス創出を期待